

プラン作りについて、歩いてみて思ったこと

■ 日数について

当初予定日数： 芭蕉の奥の細道108日+周辺観光12日 = 120日

実施日数： 合計「106日」

私は3月20日～10月31日まで3回に分けて2278kmの道を歩いた。

■ 予算について

当初予算：150万円 / 実行費用：145万円

都市部以外での宿は数も少ないまたは無いので、前後の場所に宿を確保、歩いた場所迄は列車、バスを利用した。公共交通機関が少なくてやむを得ずタクシーを利用した所もあったが、事前計画がきちんとしていたら使わずに済んだかもしれない。

ガイド代、入館料、温泉などは必要経費だが、計画がきちんとしていたら洗濯、宅配便費用はもう少し削減できたかもしれない。

■ 宿について

情に触れる旅を念頭に民宿4、ビジネスホテル2、温泉ホテル1の割合で次の予算で考えていた。

民宿1泊2食 8,000円/ ビジネス朝付 7,000円/ ホテル1泊2食 12,000円

ネット、観光案内所などでの宿に関する情報収集に時間がかかりかなり苦労した。

コロナ禍で民宿も廃業した所が多く、宿泊は都市のビジネスホテルが中心になった。

■ おくのほそ道ルートにおける観光協会等への要望や感じたこと

・観光協会、案内所と民宿との連携による情報提供を望む。

宿探しの苦労を軽減すると共に民宿の復活や活性化も期待できる。

・主要観光地や山越えなどでは土地のボランティアガイドなどへ事前希望を提出することにより、最適なガイドを確保し案内を依頼できるようにしてほしい。（少しずつ普及していると思う）

・一関、新庄などでは周辺地域との協力関係が構築されていたが、全体としてまだまだ不十分と感じた。

・芭蕉への想い入れは地域によりかなり差があり観光案内所で尋ねても全く知らなかった所もいくつかあり地元の学芸員に連絡しながら歩いた。

奥の細道を歩く人は専門家以外ほとんどいないので、町も予算が組めないとの話もあった。

■ その他

道が平坦か？ 山道か？ など事前に調べ考慮の上、歩く距離を決め宿を選定する必要がある。

また国道、トンネルなどで歩行路の無い道は事故の危険性も高くなるので、歩くことの是非をしっかり考えたい。

芭蕉の関連本と現地の観光協会などからの資料を基に旅行計画を立案したが、長い旅には準備時間（約4ヶ月）が不足、出来れば10～12回、3～5年ぐらいに分けて実行すべきと思った。

■ 薬について

日本海沿い、山越えなど一部地域ではドラッグストア、病院も見つからず苦労した。

常備薬に加えて、ロキソニンの痛み止めは多めに用意すべきである。